

【 6 】クルマ社会の心身への影響

(6 - 1)クルマ社会が子どもの心身状態に及ぼす影響 (A ~ C ´群 : 大人全体への質問)

質問 40年ほど前からクルマが急増し、それに伴って道を含めた子どもの遊び場が減り、交通事故の危険も増え、子どもが外で遊ぶことが少なくなってきました。移動も今はマイカーがあたり前です。そうしたことの影響として各方面から以下のような問題点が指摘されています。同感するもの(クルマ社会の影響が大きいと思うもの)があれば、をつけてください。

- 1:体力や抵抗力が低下している
- 2:忍耐力が低下している
- 3:子ども同士の関わり合い(異年齢交流など)が減り、たくましさや思いやりの心が育ちにくくなっている
- 4:思いきり遊べる場がないことがストレスを増幅させている
- 5:無から遊びを考え出す意欲が減少
- 6:他者との関わりの機会が減り、公德心が低下している
- 7:その他お感じのことやご意見(反論も歓迎です)

... 子どもの体力や抵抗力の低下を6割が感じている ...

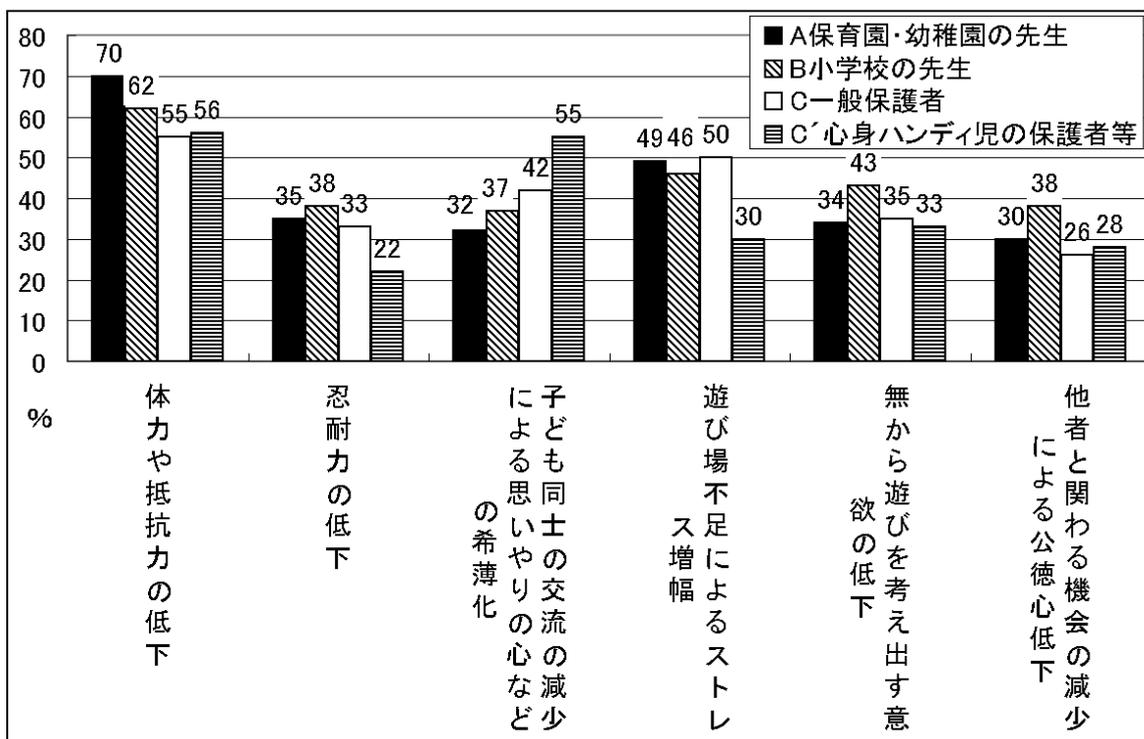
ここでは、クルマ社会が子どもの心身に及ぼす影響について質問した。影響が大きいと感じること(複数選択式)は、「体力や抵抗力の低下」が最も多く、平均で6割の人が挙げている。次いで多いのは、「遊び場の不足によるストレス」(平均44%)「子ども同士の関わり合いの減少によるたくましさや思いやりの心の育ちにくさ」(同41%)だった。「無から遊びを考え出す意欲の減少」「忍耐力の低下」「他者との交流の減少

による公德心の低下」も、3割を越えており、いずれの問題も少なからぬ人が感じている。

小学校の先生の回答では「無から遊びを考え出す意欲の減少」や「公德心の低下」が他の群より多い。

心身ハンディ児の保護者等の回答では「子ども同士の関わり合いの減少...」を挙げている率が最も高く、子どもたちが自然に出会い、交流できる場を求める気持ちさが特に強いのではないかと感じられる。

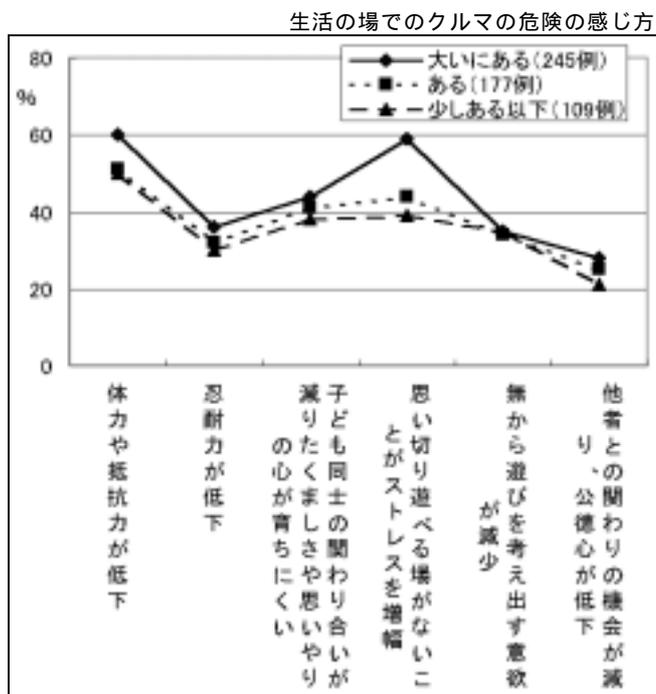
(図 6 - 1) 子どもの心身の問題でクルマ社会の影響が大きいと感ずること (A ~ C ´群の回答)
各群で選択した人の割合。回答は複数選択式。



... 生活周辺にクルマの危険が多いほど、心身への影響も大 ...

前記質問についての一般保護者の回答を、生活周辺のクルマの危険の感じ方(p 16)別に調べたところ、クルマの危険が「大いにある」と感じている群ほど、さまざまな影響を強く感じていることが示された。特に「体力や抵抗力の低下」「思いきり遊べる場がないためのストレス」についての影響が、他の群より目立って高かった。

(図 6 - 1 - 補 1) 生活周辺のクルマの危険度別に見る心身への影響のとりえ方 (C 群 : 一般保護者の回答より)

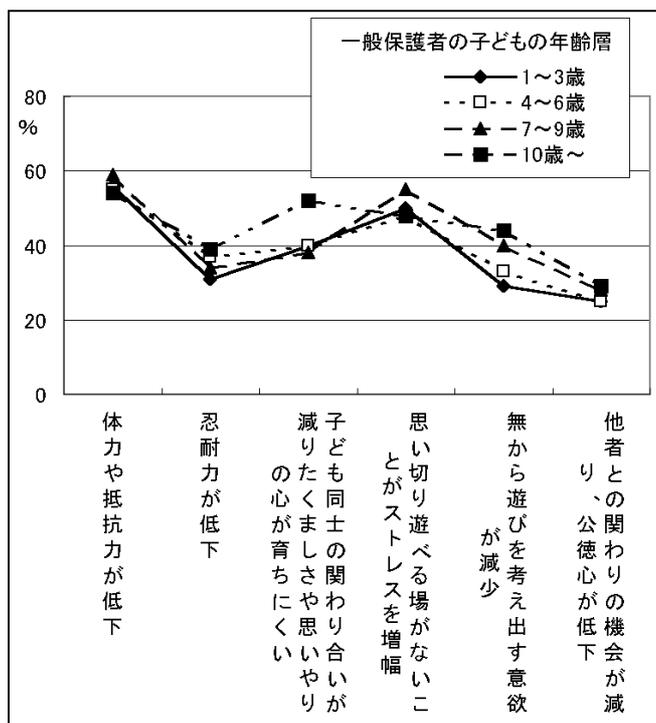


(6 - 1 - 補 2) 年齢層別に見る、心身状態への影響 (C 群 : 一般保護者への質問より)

... 成長してから見えてくる思考意欲の減少など ...

さらに一般保護者の回答を子どもの年齢層別に見ると「子ども同士の関わり合いの減少によるたくましさや思いやりの心の育ちにくさ」や「無から遊びを考え出す意欲の減少」、「忍耐力の低下」などについては、10歳以上の年齢層を持つ親で回答割合が高かった。このような影響はある程度成長した頃に実感されるためではないだろうか。

(図 6 - 1 - 補 2) 子どもの年齢層別に見る心身への影響のとりえ方 (C 群 : 一般保護者の回答より)



... テレビやゲーム、少子化などの影響を指摘する声も多い ...

その他意見には、合計 147 の意見が寄せられた。その中で最も多かったのは、「こうした現象はクルマ社会の影響ばかりではない」というもので (27%)、映像・ゲーム機器の浸透や少子化、遊ぶ時間の減少などの影響が大きいのでは、という指摘も多くあった。いうまでもなく、どんな現象も多くの要因が絡み合っ

て現れるもので、そうした要因も影響しあっていることはたしかである。

その他、安心して遊べる場所や自然と触れ合う機会のない現実や、歩かない生活による脚力低下など心身の発育への影響を懸念する意見が多数あった。また、公共交通を使う機会が減って公共マナーが身についていないという意見や、大人のクルマ依存や現代社会全体への批判も少なくない一方、クルマは便利な必需品、共存を、という意見も見られた。

「その他」欄への大人の記入意見 (一部) (A ~ C' 群の回答)

() の数字は同種の意見が複数ある場合のその数

クルマ社会だけの影響ではないという意見 (40)
*クルマ社会の影響ばかりではなく多くのことが影響している (この意見が大半。他の影響として挙げられている要因は多い順に 1:テレビ、ビデオ、コンピューター、テレビゲーム 2:少子化 3:治安の悪化 4:塾や教育熱などによる遊び時間の減少 5:地域の環境や人間関係の変化 6:遊び相手がいない 7:物だけ豊かで心の貧しい大人社会 8:おもちゃの与えすぎ、など) *クルマの急増の問題と直結させるのは問題だ (2) *部分的には同感する、など

外遊びの場や自然の消失に関する意見 (29)
*家の周辺に車の危険が多く思いきり遊べない (3)
*安全な遊び場がないから家の中で遊ぶことになる (2) *危なくて子どもだけで遊ばせられない (3)
*自然 (土や草花、虫) と触れ合う機会が減っている (2) *自然や季節の変化に疎くなっている (2) *子どもに「原っぱってなに」と聞かれて愕然としたが、周辺にないので無理もない *道路拡張で自然が消失 *空き地はほとんど駐車場となり、空いてはいるが実は一番危ない場所 *登下校時に土を踏むことがない。アスファルトの道ばかりなのは子どもにとって問題 *車の危険の心配が子どもの行動範囲を狭めている、など

心身の発育や健康への影響に関する意見 (23)
*歩かない・歩けない子 (大人も) が増えている (3)
*自由な遊び場が減って人工的な遊び場が増え、異年齢で遊ぶ機会も減り、子どもの心身が心配 (3) *排ガスによる大気汚染がアレルギーに影響 (3) *歩く機会が減ったためかこころびやすい (2) *歩く力が低下し、団体で歩かせるのに苦労する (2) *体で遊べ

ない *歩く楽しさを知らない *移動は車、家ではゲーム、おやつはスナック菓子、の構図で肥満児が増えている *通学路の自然や風景から心を癒されず、車が歩行者をいじめているような環境では「おびえる」心が育つ *何をして遊んだらよいか大人に聞く、 *公園があっても群れをなして遊ぶ姿を見かけない、など

公共マナー・公德心低下に関する意見 (13)
*公共の乗り物でのマナーが悪い (具体例として飲食したがる、すぐ靴を脱ごうとする、静かに長く乗ることができないなど) (6) *車で移動する生活で交通ルールを知らない (2) *バスや電車の乗り方を知らない、など

親や大人の対応に問題があるという意見 (12)
*親が車に頼りすぎている (2) *園バスのない園だが、親の理解を得るのが難しい (悪天候で歩かせるのはかわいそう、乳児連れで大変など) *親の運転マナーが悪い *降園時、雨の日など親が車で迎えにくることが多く、子どもは傘をさすのも下手。自立心が育たない、など

クルマ社会や社会全体への意見 (12)
*地方ほど公共交通が不便で戸口から戸口へのマイカー利用が多く、幼少時から歩くことが少ないのが気がかり (2) *車社会で移動時間が早くなった分仕事量が増え、忙しさに追われる生活になっている *車道をよくするから必要のない車がどんどん増える *山や海への道路をつくりすぎ *地域で子どもを育てるという考えがない *車社会になって自分中心の大人が増えた *車のせいだけではないが、ゆとりがなくいつも何か

に追われている気がする、など

歩くことや友だち作りなどに努めているという意見(6)
*園では歩くことを保護者にも伝え、遊び保育を重視しているのさほど問題を感じない*異年齢保育に努めている*歩きながら話したり歌ったりする時間をとるようにしている、など

クルマは便利で必需品、共存をという意見(6)
*公共交通機関が不便なので車がないと動けない*子どもが多いので車は便利*車社会の問題もあるが経済界の中で車産業の負っている部分も大きく、共存の道を選びたい、など

上記に属さない意見(6)(略)

【6】の回答に関連して(会の所感)

クルマ社会の、子どもの心身への影響は30~40年前から

子どもたちの体力や忍耐力、物事への意欲の低下、他者を思いやる心の減退、心身ストレス過剰などは、もう長年の社会問題ともなっています。その原因は、前ページの回答にも挙がっているように、テレビやゲーム機器の浸透、少子化、学歴社会の中での遊ぶ時間の減少、また、快適・便利になりすぎた物質依存の生活、個人中心的な大人の意識など、さまざまな問題が絡み合っているとみられています。

クルマ社会の進行も、その1つの要因として指摘されて久しくなります。1960年代後半から70年代にかけて、クルマの急増によって交通事故も史上最悪の事態となり、戸外はクルマの危険があふれたうえに遊び場も減り、子どもたちは家の中に追いやられました。ちょうどそのころには家庭にテレビが普及し、また、教育熱の加速、共働き世帯の増加、室内玩具の増加などの要因も重なり、子どもはますます外に出なくなりました。このころから、子どもたちの体力や運動能力の低下、また、視力や大脳前頭葉の働きの低下、肥満児やぜん息児の増加傾向が現れています*。その後もゲーム機器の出現(80年代~)が追い討ちをかけ、ゆとりのない競争社会が進行する中で、子どもや若者の心身の変調はさらに深刻になっています。

回答の中に「クルマ社会になって忙しさに追われるようになった」という記述意見もありました。クルマに頼る(頼らなくてはならなくなった)生活は、子どもの心身だけでなく大人に及ぼす影響も少なくないように感じられます。

参考:「子どものからだと心白書」 子どものからだと心・連絡会議刊